

愚禿

身近な仏教用語ではないのですが、親鸞聖人の人間性を知る



うえで重要な言葉ですのでご紹介させていただきます。

「愚禿」とは、親鸞聖人が独自に作られた言葉です。

「愚」は、愚かである事、「禿」は、剃髪はしているけれども、戒律を守れない墮落した僧侶の事を意味します。

聖人は、この語を持って自らの姓とされました。

その時期は、親鸞聖人が比叡山を下り、法然聖人の元

でお過ごしになられたのが三十代前半です。三十五歳の

時に、他宗派の念仏批判や後鳥羽上皇の逆鱗に触れるよ

うなことがあり、念仏停止令が出されます。親鸞聖人は

越後へ流罪となりました。その際に、還俗させられ、藤井

善信という俗名が与えられます。しかし、親鸞聖人は自

らを愚禿という姓を名乗られました。

僧にあらず 俗にあらず

この故に禿の字を以て姓とす。

真宗のみ教えは立派になっていく教

えではありません。自らの浅ましさと

阿弥陀如来の慈悲の深さを日々聞かせ

ていただくのです。



三十三度を
涼しいと
思うとは
老身

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

恐怖

「きょうふ」と読み
そうですが仏教では
「くふ」と読みます。



意味は同じです。おそれおののくことは、様々な不安から生じます。

恐怖を克服するには、恐怖の生じる原因を知って、あらかじめこれをおそれ、行動を正しくし、心を整えることが必要とされます。

最近では、スーパーに並ぶお米が不足しているそうです。ワイドショーやニュースを見て、不安になり、お米を必要以上に買いに行く人も増えていきます。「行動を正しくし、心を整えることが必要」と先程出てきました。ちょっと考えればわかる事なのです。もうすぐ、新米の時期であると。

新型コロナウイルスの初期の頃、マスクが足りないと毎日ドラッグストアに並ぶ人々がいました。ある店員さんは言いました。「コロナより、人間の方が怖い」と

昼も夜も不安になり恐怖していることを畜生の生き方ともいいます。互いに傷つけあう苦しみを味わう道です。

自分の行いはどうであったのかを問うていくのが仏教の道です。

